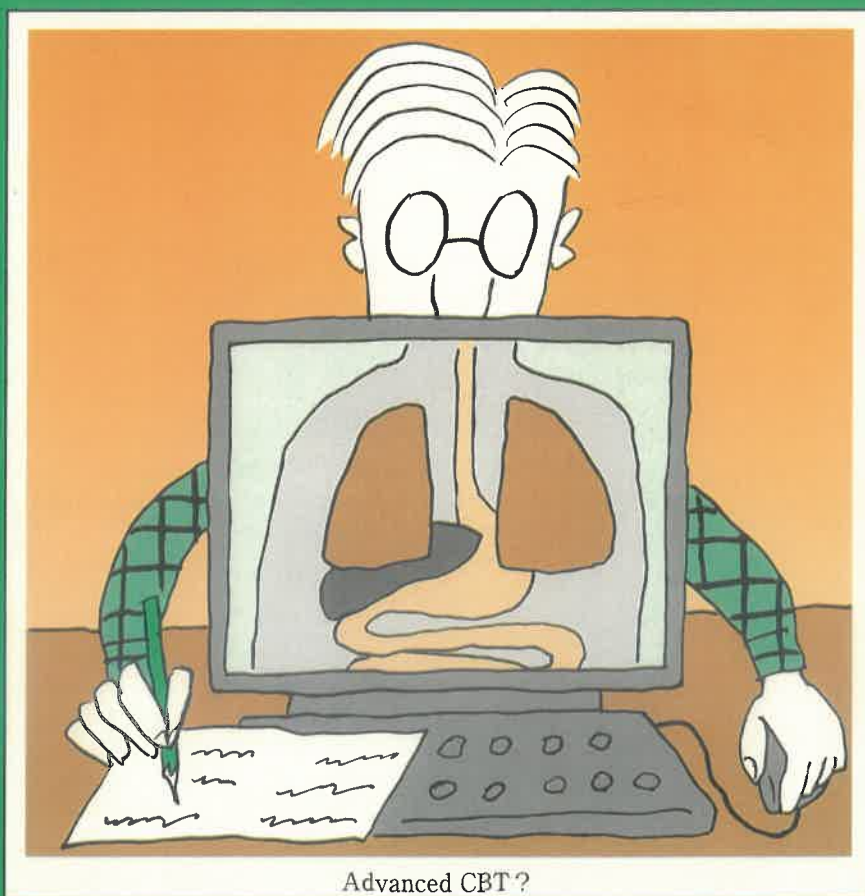


Medical Education (Japan)

# 医学教育

特集 卒前医学教育責任委員会の紹介



Vol.38 No.1 2007

編集発行 日本医学教育学会  
(URL:<http://jsme.uimin.ac.jp>)

発売 株式会社篠原出版新社

tion をキーワードに卒前・卒後教育の連携を意識した教育体制を整備している。

また、薬学部新設に伴う教養・専門教育の在り方が重要課題であり、人間性教育の充実、6年一貫教育の

促進、医・歯・薬学教育の連携強化、教育評価の確立、教員の教育能力充実へ向けたより一層の努力を進めていきたい。

(岩手医科大学医学部教務課)

## 山形大学医学部教務委員会

山形大学医学部は、2003年に嘉山教授が医学部長に就任して以来、医学教育の向上、そしてそのための教育改革をもっとも重要なテーマの1つとして位置づけてきた。

山形大学医学部教務委員会はその具現化の大きな役割をになう委員会であり、わが医学部の中心的な存在である。

### 1. 構成員

平成18年4月から新しくなった。新構成員を以下に記す。

委員長：木村 理教授(消化器・一般外科学, 兼任)

副委員長：石井邦明教授(循環薬理学, 兼任)

北中千史教授(腫瘍分子医科学, 兼任)

委員：加藤宏司教授(神経機能制御学, 兼任)

深尾 彰教授(公衆衛生学, 兼任)

浅尾裕信教授(免疫学, 兼任)

加藤丈夫教授(生命情報内科学, 兼任)

貞弘光章教授(循環器・呼吸器・小児外科学, 兼任)

富田善彦教授(腎泌尿器外科学, 兼任)

川前金幸教授(急性期生体機能統御学, 兼任)

丸田忠雄教授(言語分析学, 兼任)

北目文郎教授(臨床看護学, 兼任)

小林淳子教授(地域看護学, 兼任)

佐藤幸子教授(臨床看護学, 兼任)

### 2. 沿革

山形大学医学部は1973年9月29日に定員100名で開設され、第1回生を迎えた。「自ら考える医師ならびに医学研究者を養成する」とした教育基本方針を反映させたカリキュラムを作成するため、教務委員会は1年生の教養教育から6年生の卒業試験・国家試験対策までの教育課程を多岐にわたり検討した。特に臨床実習のカリキュラム、総合講義、研究室研修について論議を重ねて検討し、今日の基礎を築いた。

しかし2003年度から、医学教育モデル・コア・カリキュラムを導入し大幅なカリキュラム改正を行い、2005年度からは共用試験(CBT・OSCE)を実施、2006年度から臨床実習を診療参加型にして医師国家

試験並びに卒後臨床研修に対応する内容に改革している。

### 3. 業務内容

#### 1) 教務委員会審議事項

(1) 教育課程の編成の基準に関すること。

(2) 授業時間割の編成に関すること。

(3) 年間教育行事計画の設定に関すること。

(4) 学習の評価基準の設定に関すること。

(5) 入学試験に関すること(入試委員会の所掌に係るものを除く)。

(6) その他学生に関する重要事項(厚生委員会の所掌に係るものを除く)

(7) その他必要なこと。

#### 2) 教務委員会所掌業務事項

(1) 履修規程に関すること。

(2) 教育課程(カリキュラム)に関すること。

1年次 教養課程, 医学基礎教育科目

2年次 基礎系分野による専門科目

3年次 臓器疾患学コース毎, 研究室研修

4年次 全身性疾患学, 総合医学演習, 診療技能学, 地域医療学(実習)

4年次後半 見学型臨床実習(ベットのサイドラーニング)

5年次診療 参加型臨床実習(クリニカル・クラクシップ)

(3) 授業時間割に関すること。

(4) 研究室研修に関すること。

(5) 卒業試験に関すること。

(6) 特別講義及び総合試験に関すること。

(7) 臨床実習(4, 5, 6年)に関すること。

(8) 共用試験(CBT, OSCE)に関すること。

(9) 医学教育ワークショップに関すること。

(10) 学生の修学指導に関すること。

(11) 学生の異動(休学, 退学, 復学)に関すること。

(12) 学生便覧, 実習の手引き, シラバス等の作成。

(13) 非正規性(研究生)に関すること。

(14) 非常勤講師に関すること。

(15) 移行, 進級, 卒業判定に関すること。

#### 4. 現在の活動と将来

2003年に嘉山孝正病院長(当時)が学部長に就任して以来、あるいはさらにさかのぼって嘉山教授が教務委員長だった2000年ころから、医学教育の分野においてはさまざまな改革がなされてきた。2年次、5年次における野外セミナーの改革と学生の意識改革、PBLテュートリアル導入、コア・カリキュラムの実施、共用試験、つまりCBT(コンピュータに基づく客観試験)およびOSCE(客観的臨床能力試験)の準備と対応などなど枚挙にいとまがない。

2005年12月には医学部4年生のCBTおよびOSCEが全国のトップをきって正式に実施された。教員たちの熱心な指導により、CBTの結果は全員合格で、その平均正答率および正答率分布曲線は全国のそれらを約10点も上回るものであった。

2006年1月からは、4年生でベッドサイドラーニング(見学型臨床実習)が、また5年生でクリニック・クラークシップ(診療参加型臨床実習)が開始されたが、これらの臨床実習は全国のどの大学よりも早い学年(時期)に実施されたものである。2006年12月にはクリニック・クラークシップに必要な臨床実技の知識・能力を確認するために5年生にアドヴァンストOSCEを実施した。

6年生には各科の卒業試験だけでなく、総合試験を行ってそれをクリアしないと卒業できないシステムを作り上げている。すでにそれによって不合格と判定され卒業が見送られたものも毎年数人以上存在する。こ

のような厳しい教育指導のもとで、最近の医師国家試験合格率は向上し、全国国立大学法人42校中2005年9位、2006年2位となっている。全国80大学医学部ではそれぞれ17位、7位となっている。

山形大学医学部の入学試験では少子化による学生の減少にもかかわらず、受験数は増加し、全国展開する大手予備校の調査でも合格最低ラインの偏差値が72とかなり高くなっている。その大きな理由の1つに、上述したわれわれの教育姿勢が評価されたことも挙げられよう。

なお1年生の9月には山形、上山、天童各市の消防本部の協力を得て、「早期医学・医療体験学習」として医学部学生が救急車に乗って早期に救急医学を体験できるカリキュラムも実施されている。「医療の道」を歩み始めたことを医学部入学早期に強く意識することの意義は大きいと考えている。

1年から6年の各クラスにはそれぞれアドヴァイザーがおり、教育や生活の相談などさまざまな免から学生を支えている。

#### 5. 今後の方針

今後さらに医学英語の充実による臨床医学論文の読解力や理解力の向上、サージカル・アトミーの導入など、さらなるカリキュラム改革によって多様で変化する医学の実践的知識の習得をめざし、ますます改革の手を緩めずにやっていく方針である。

(山形大学医学部長 嘉山孝正、  
同教務委員会委員長 木村 理)

### 藤田保健衛生大学医学部教務委員会

#### 1. 卒前医学教育責任委員会

藤田保健衛生大学では医学部長・医学部教授会の下に、教務委員会を設置し、教務関係全般にわたって議論・決定することにより医学部卒前教育を総括している。

#### 2. 委員会の構成員(平成18年度)

委員長: 原田信広教授(生化学, 兼任)  
副委員長: 松井俊和教授(医学教育企画室長, 臨床医学総論, 兼任)  
松永佳世子教授(皮膚科, 兼任)  
吉田俊治教授(感染症・リウマチ内科, 兼任)  
委員: 伊藤光泰教授(内分泌・代謝内科, 兼任)  
岩田仲生教授(精神科, 兼任)  
白田信光教授(解剖学Ⅱ, 兼任)

太田明教授(生理学Ⅰ, 兼任)  
榎原博樹教授(呼吸器・アレルギー内科, 兼任)  
谷口孝喜教授(ウイルス・寄生虫学, 兼任)  
辻 孝雄教授(微生物学, 兼任)  
堤 寛教授(病理学Ⅰ, 兼任)  
橋本修二教授(衛生学, 兼任)  
松浦晃洋教授(病理学Ⅱ, 兼任)  
宮川秀一教授(消化器外科, 兼任)  
吉村陽子教授(形成外科, 兼任)

#### 3. 沿革

1972年(昭和47年)の開学以来、「良き臨床医の養成」を目標に教務委員会は医学部教育の企画・立案・改善を目指して活動している。この間、数度にわたって6年間の一貫した教育プログラムとして医人間学科目、基礎医学科目、臨床医学科目について大幅